

予想に働きかける政策をゲーム理論で考える

神奈川大学・一橋大学 宇井貴志

2013年以來、日本銀行は人々のインフレ予想に働きかけて2%のインフレ率を実現しようとしてきたが、予想への働きかけは失敗した。本稿ではゲーム理論の視点から「なぜインフレ予想の操作は難しいのか」という問題について考える。予想インフレ率が長期間安定しているとき、その予想インフレ率は共有知識となり、分析哲学者デイヴィッド・ルイスの意味での慣習として定着する。このときインフレ予想を操作するには、一人ひとりのインフレ予想だけでなく、その共有知識の操作が必要になる。共有知識の操作に成功した例として、1994年にブラジルで実施されたリアル計画について検討する。また、共有知識の操作とナラティブ経済学の関係について論じる。